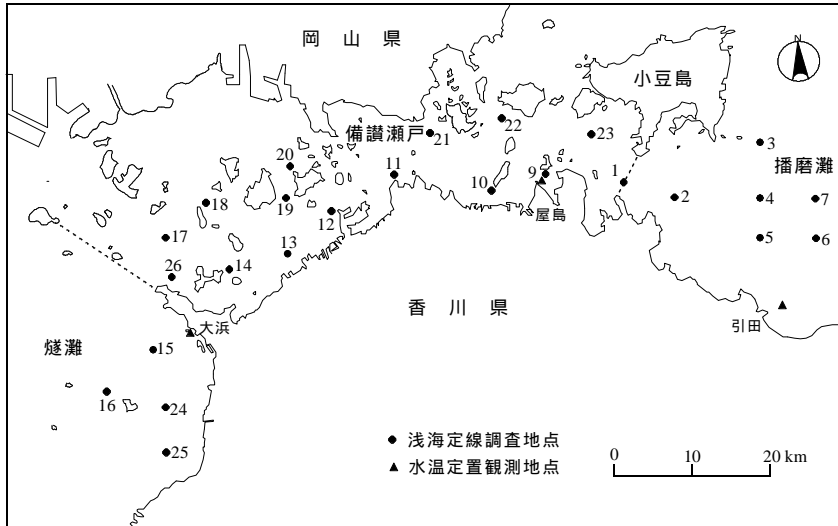


香川県漁海況速報 平成18年 6月 (H18-3号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年6月2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「平年並み」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「平年並みから著しく高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	18.3	16.5	14.8	31.9	32.0	32.2	6.6	5.67	5.42
	平年値	18.4	17.1	15.4	32.0	32.1	32.3	9.6	5.37	4.60
	平年偏差	-0.1	-0.6	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	-3.0	0.30	0.81
	状況	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや高め	著しく高め
備讃瀬戸	14地点平均値	17.4	16.9	16.7	32.2	32.2	32.3	4.5	5.47	5.33
	平年値	18.0	17.6	17.4	32.2	32.3	32.3	5.0	5.21	5.08
	平年偏差	-0.6	-0.7	-0.6	0.0	0.0	0.0	-0.5	0.26	0.25
	状況	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め
燧灘	4地点平均値	20.0	16.5	14.4	32.5	32.8	33.2	9.2	5.48	4.98
	平年値	20.4	17.0	15.2	32.5	32.7	32.9	10.3	5.42	4.38
	平年偏差	-0.5	-0.4	-0.8	0.0	0.1	0.3	-1.2	0.06	0.60
	状況	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

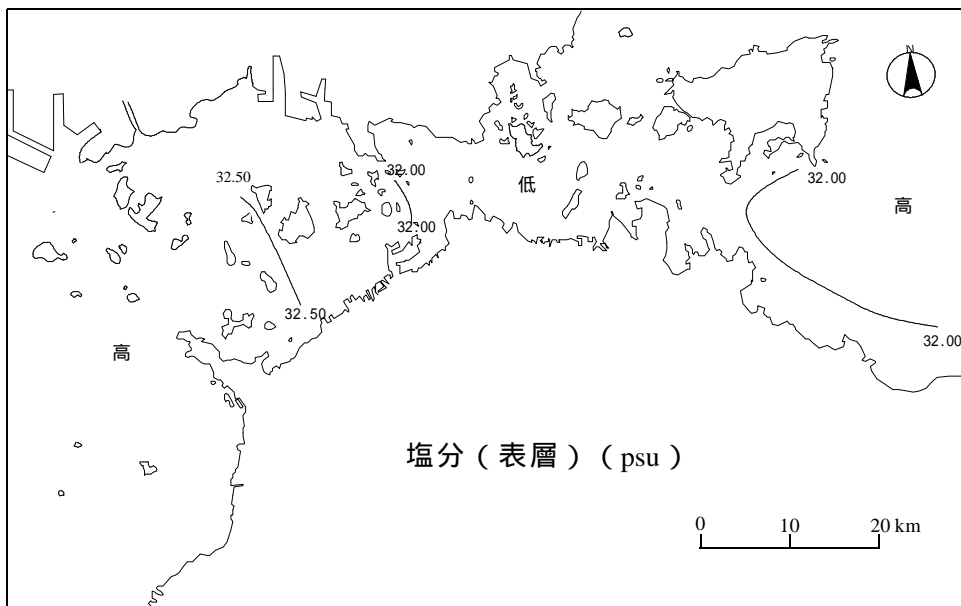
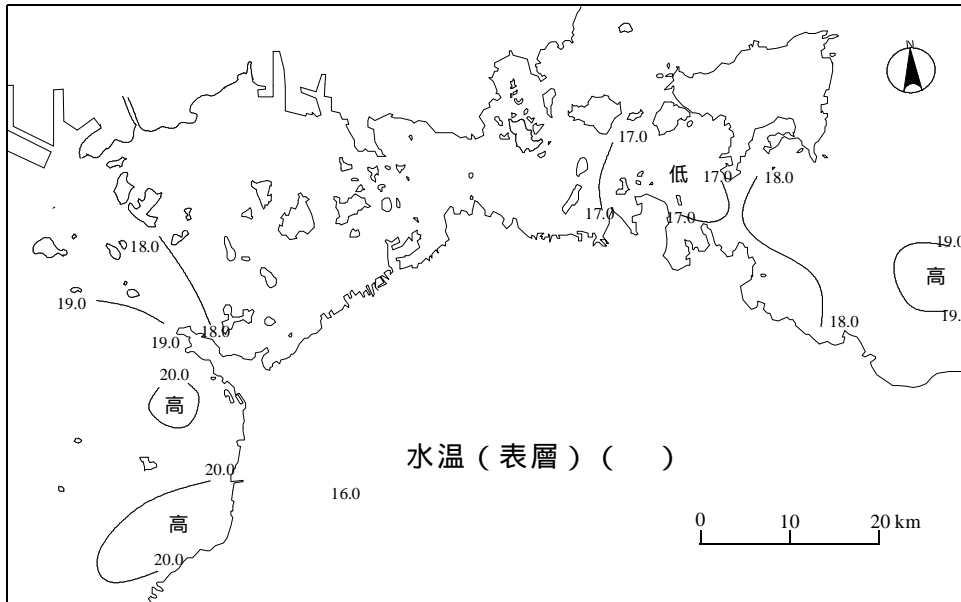
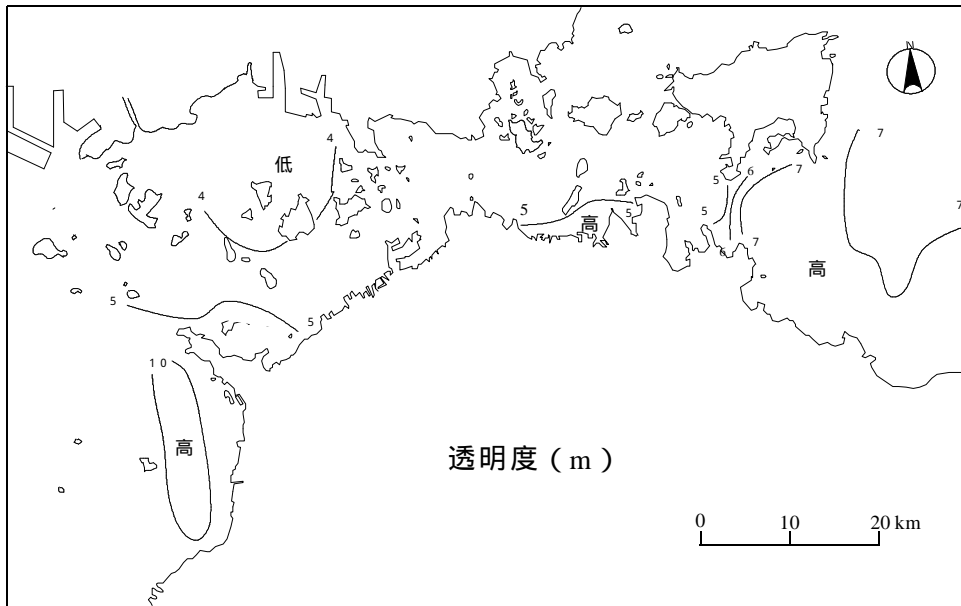
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



2) 定置観測(水温)

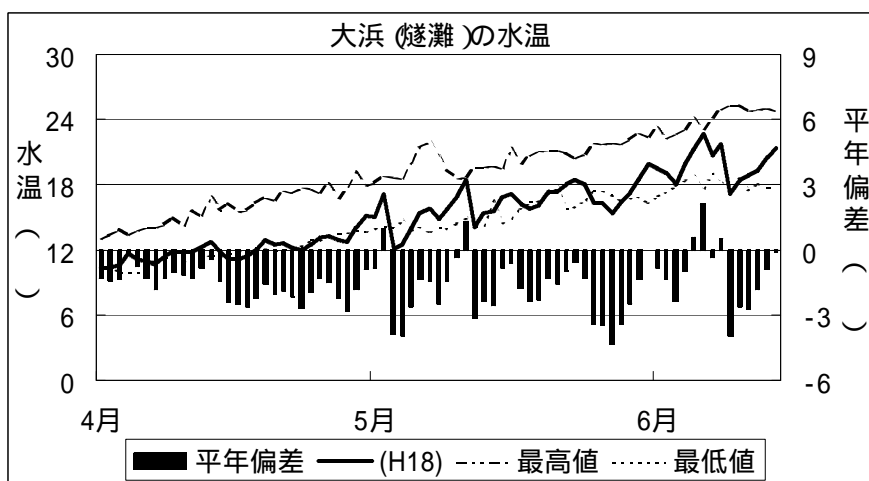
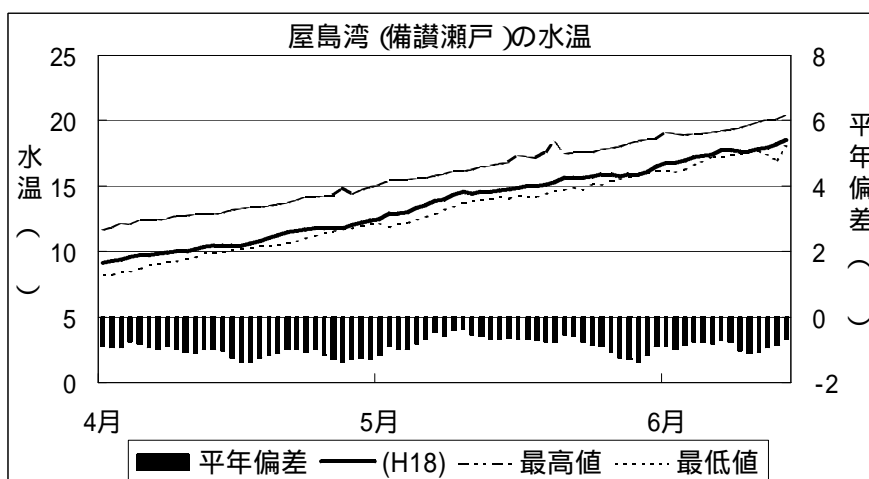
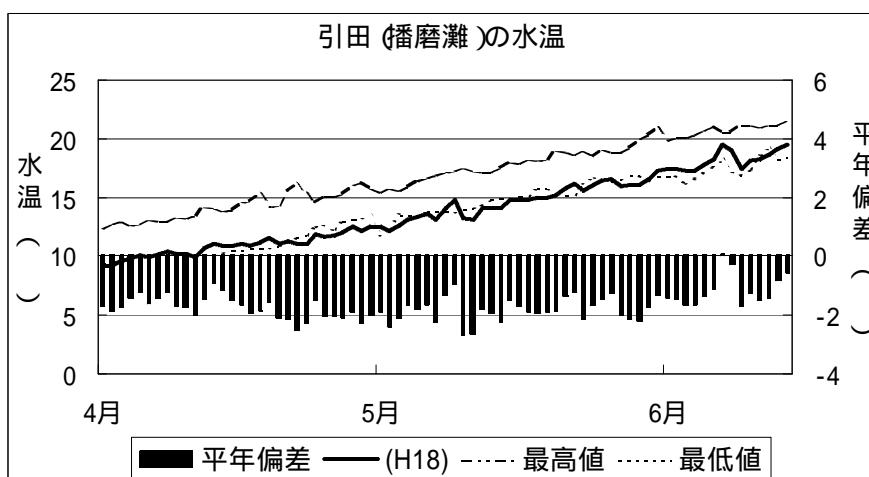
播磨灘(引田): 4月上旬以降、年平均偏差が-1.0 ~ -2.5 前後で推移していたが、6月に入ると
 平年値を上回る日があらわれ、中旬には-1.0 未満となった。

備讃瀬戸(屋島): 4月上旬から5月上旬まで、年平均偏差が-1.0 前後、5月中旬は-0.6 前後、
 下旬以降は、-1.4 ~ -0.6 の間で推移している。

燧灘(大浜): 3月中旬以降、年平均偏差が -2.0 前後で推移していたが、5月以降は、平年値を
 上回る日がある一方で、-4.0 弱の日もあるなど大きく変動しながら推移してい
 る。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989) ~ 平成17(2005)年

屋島: 昭和50(1975) ~ 平成17(2005)年



3) 赤潮

播磨灘：6月中旬、筋状のノクチルカ赤潮と、志度湾奥部でヘテロシグマ赤潮の発生がそれぞれ確認された。
 備讃瀬戸：6月下旬、坂出市林田港内でヘテロシグマ赤潮の発生が確認された。
 燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成18年6月2日（播磨灘）、1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	91.13	4.50	0.00	0.00	0.00	0.00	49.38	4.38
備讃瀬戸平均	4.27	0.53	0.00	0.00	0.00	0.00	25.40	5.13
燧灘平均	88.71	9.14	0.00	0.00	0.00	0.00	10.71	7.57
総平均	47.13	3.60	0.00	0.00	0.00	0.00	28.37	5.50

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	300.4%	175.1%	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	75.4%	17.6%	0.0%	0.0%
燧灘平均	137.3%	81.1%	0.0%	0.0%
総平均	142.3%	45.6%	0.0%	0.0%

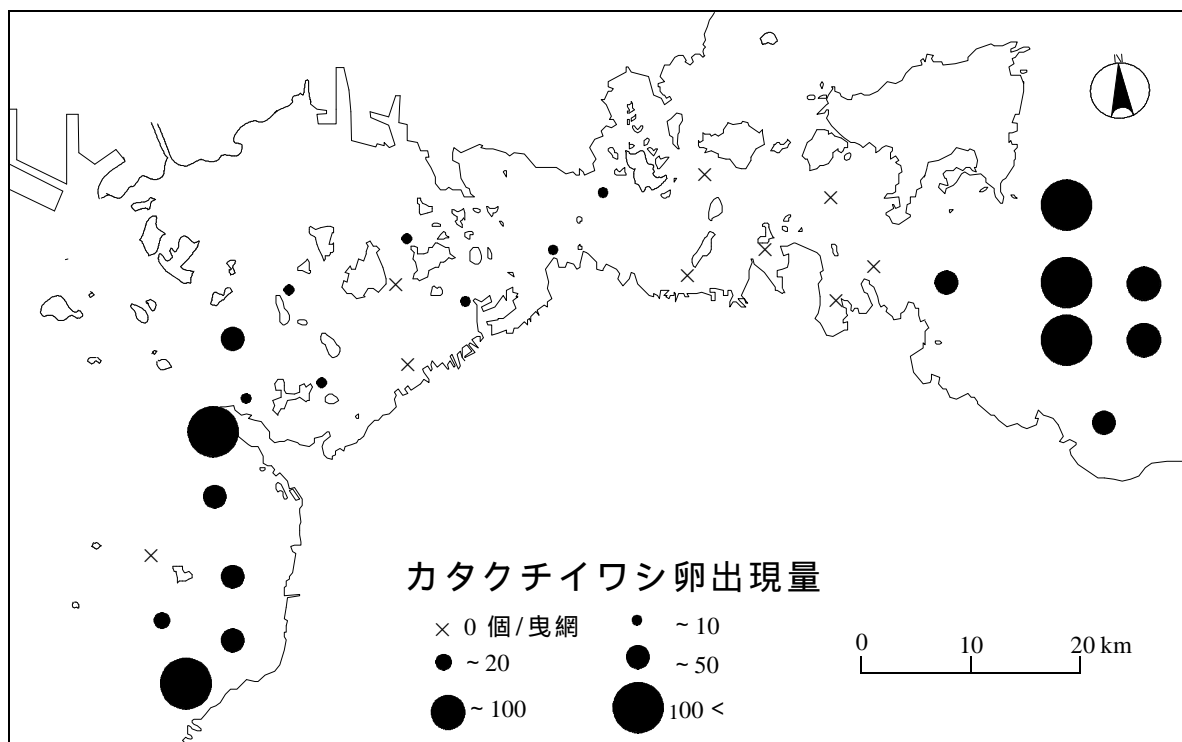
- :平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

5月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>さわら流し刺網の5月までの漁獲量は、「さわら」は前年の約1/2程度と推定されるが、「さごし」の漁獲量は前年と比べて多い。</p> <p>大型定置網は6月1日から操業が開始され、マルアジ、マサバ主体に漁獲されているが、全般的に不漁である。</p> <p>東讃のシラスの船曳網は5月20日から操業が開始されたが、不漁で休漁状態である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダイ、マアナゴ、テナガダコ、コウイカ類が漁獲されている。</p> <p>高松・庵治沖のイカナゴ込網の5月までの漁獲量は、約4700トンで前年の約1.7倍と豊漁であった。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小エビ類、メイタガレイ、テンジクダイが漁獲されているが、コウイカ類が少ない。</p> <p>さより機船船びき網の6月上旬の漁獲量は約150～200 kg / 隻・日と多く、大きさは小主体である。漁期は6月10日をもって終了した。</p> <p>イワシ機船船曳網の大羽漁は6月14日、ちりめん漁は6月24日から操業が開始され、大羽の漁獲量は前年と同程度であった。</p>